



他職種連携による介護予防と買い物支援の居場所

ごましお健康くらぶ事業

(五町田・久間・塩田・大草野)



嬉野市生活支援コーディネーター
(地域支え合い推進員)

溝口 道昭



嬉野市のご紹介

地形の特徴

ほぼ全域が山に囲まれ、中央に塩田川が流れている。盆地と中山間地に人が暮らしている。

主な産業と特産品

- 農業・・・嬉野茶
- 観光業・・・嬉野温泉(日本三大美肌の湯)
- 窯業・・・吉田焼
- 酒造業・・・東町、東一、虎の子



嬉野市の状況

人口	26, 288名 ※平成30年12月	毎年300名前後が減少
65歳以上	8, 634名 ※平成30年12月 (内4, 565名が後期高齢者)	高齢化率32. 9%
要支援・要介護者数	1, 566名 ※平成30年12月 (内345名が要支援1、2)	65歳以上の5人に1人

【生活支援コーディネーターの配置について】

- ◆1層SC(嬉野市) ……社会福祉法人に委託
- ◆2層SC(塩田地区)……社会福祉協議会に委託
- ◆2層SC(嬉野地区)……社会福祉協議会に委託
- ◆2層SC(吉田地区)……NPO法人に委託

※各SCは、それぞれ勤務地が違うので、毎月1回～2回の連絡会をやっています。



「ごましお健康くらぶ」とは

「ごましお健康くらぶ」は嬉野市塩田町をモデル地区に定めた、有償ボランティアによる住民サポートを核として始まった介護予防と買い物支援の場です。

「名称の由来」

塩田町は、大正時代の頃、五町田村、久間村、塩田村の3つの村が合併して誕生しました。

かつて、それぞれの地区の頭文字を取った「**ごましお**」という愛称が塩田町を示す言葉としてよく使われていました。

特に、年配の方には「ごましお」という愛称に対しての馴染みが深く、また、通いを通し、自助力を高める観点から「**ごましお健康くらぶ**」という事業名に決定しました。

介護予防と買い物支援事業 「ごましお健康くらぶ」

事業スタート	令和元年5月7日
事業内容	塩田地区を移動支援の為の送迎車輛が走り、市民ボランティアのサポートを受け介護予防の100歳体操と買い物支援を受けることができる。 〈移動支援団体〉：社会福祉法人 済昭園 〈ボランティア団体〉：ごましお結びの会(会員14名)
総合事業での位置づけ	社会福祉法人による移動支援：訪問型サービスD ボランティア団体による居場所の運営：通所型サービスB
利用対象者	市内在住の65歳以上の高齢者であり、以下のいずれかに該当する方 (要支援者・総合事業対象者・日常的な買い物に困っている方)
開催日時	毎週火曜日 9時～12時30分(送迎時間を含む)
1回の利用定員	15名
1回の利用料金	200円(ボランティア団体が現金で徴収)

利用日の流れ

【利用時間と内容】

時間	内容
9時～10時	自宅から会場までの送迎 ※ 送迎はマイクロバスで行けるところまで
10時～11時	100歳体操、認知症予防のレクなどの介護予防活動
11時～11時30分	買い物
11時30分～12時30分	会場から自宅までの送迎 ※ 送迎はマイクロバスで行けるところまで

※ 送迎時の乗降、買い物の際はボランティアからのサポートがあります。

介護予防と買い物支援事業 「ごましお健康くらぶ」(塩田地区)

社会文化会館
リバティ

ショッピングセンター
ぷらっと

移動
支援

介護予
防体操

買い物
支援



【ごましお健康くらぶ 各機関・団体の役割】

居場所運営

ごましお結びの会

- ・利用者受け入れ
- ・場所の管理
- ・連絡調整
- ・ボランティアの手配調整
- ・ボランティアの取りまとめ
- ・報告書(日報)の提出

協力医療機関

光武医院

- ・緊急時の対応

受付

地域包括支援センター(ケアマネ)

- ・新規利用相談受付
- ・介護予防計画(私のプラン)の作成
- ・利用誓約書の取り付け
- ・緊急時の連絡
- ・利用者に関する事(状態変化や気づき)
- ・利用者を他の高齢者サービスに繋ぐ場合の調整
- ・報告書(日報)の提出受付

全体の調整

第2層生活支援 コーディネーター

- ・平常時の利用者からの欠席や中止の連絡受付
- ・ボランティア会員に関する連絡・報告
- ・ボランティアの加入・脱退の相談
- ・事業全般に関する相談
- ・ボランティア保険に関する事
- ・定例会に関する事
- ・広報支援
- ・専門職の派遣など

移動の支援

社会福祉法人 済昭園

- ・運転手の提供
- ・車輛の提供
- ・車輛の運行

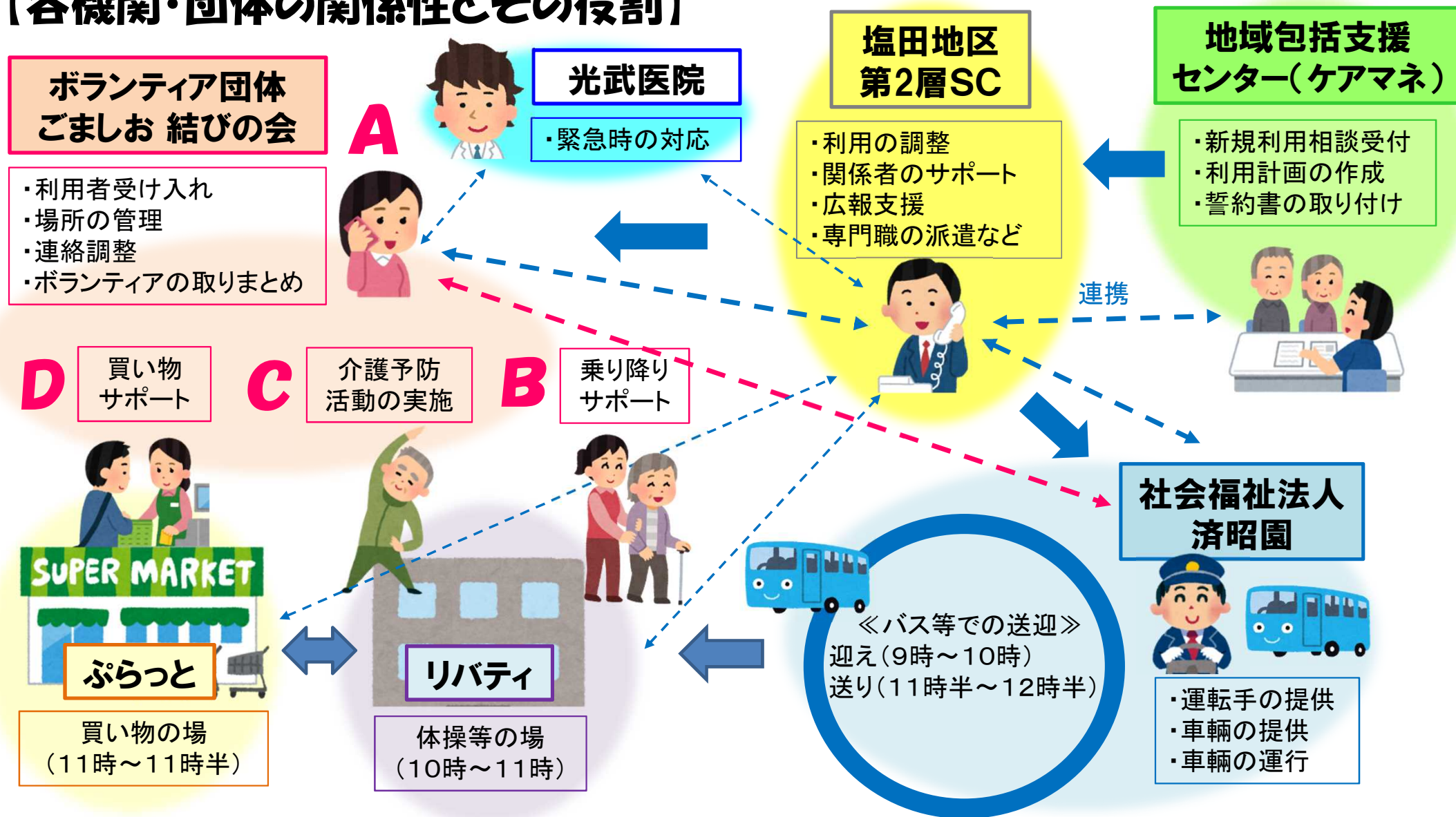
市役所

事業全般

嬉野市 福祉課

- ・事業全般に関する事
- ・補助金(報告・請求事務)に関する事
- ・賠償責任に関する事

【各機関・団体の関係性とその役割】



事業開始に繋がる地域アセスメント

〈自分の足で稼いだ地域の人の生の声〉

- ◆ 行政区への訪問調査・・・区長、民生児童員などから聴き取り
- ◆ 買い物場所への訪問調査・・・コンビニ、スーパー、物産館、ドラッグストア、商店
- ◆ 公共交通機関への訪問調査・・・タクシー会社、バス会社、福祉バス
- ◆ 公的介護保険サービスへの訪問調査・・・訪問介護事業所
- ◆ 住民主催の居場所への訪問調査・・・居場所を行われている団体や個人
- ◆ 要支援者への利用意向に対する訪問調査

〈その他データの活用〉

- ◆ 人口統計、人口予測、要支援者・要介護者の把握、免許返納者の把握 など

地域アセスメント(行政区情報の集約①)

①基本情報
嬉野市行政区別 介護保険認定者数(H29.6月末時点)

	行政区	世帯数	人口				人口に占める%		免許返納者 (H24~H30)	人口に占める%		要支援	要介護	計	人口に占める%	
			人口	20歳未満	65歳以上	75歳以上	20歳未満	高齢化率		全人口比	65歳以上				65歳以上	全人口比
1	鳥越	35	118	12	37	22	10.2	31.4	2	1.7	5.4	3	7	10	27.0	8.5
2	山口	40	132	14	61	33	10.6	46.2	2	1.5	3.3	2	6	8	13.1	6.1
3	殿ノ木庭	10	27	3	11	9	11.1	40.7	1	3.7	9.1	1	1	2	18.2	7.4
4	永石	35	123	18	46	31	14.6	37.4	0	0.0	0.0	2	6	8	17.4	6.5
5	平山	39	129	25	33	16	19.4	25.6	0	0.0	0.0	1	3	4	12.1	3.1
6	茂手	22	73	6	24	9	8.2	32.9	0	0.0	0.0	0	1	1	4.2	1.4
7	鳥坂	33	113	21	29	16	18.6	25.7	0	0.0	0.0	2	6	8	27.6	7.1
8	下童	43	136	16	57	27	11.8	41.9	2	1.5	3.5	5	5	10	17.5	7.4
9	石垣	70	244	42	80	51	17.2	32.8	4	1.6	5.0	4	13	17	21.3	7.0
10	新村	46	159	32	47	25	20.1	29.6	5	3.1	10.6	0	6	6	12.8	3.8
11	三ヶ崎	42	113	16	43	27	14.2	38.1	2	1.8	4.7	4	5	9	20.9	8.0
12																

嬉野市内88行政区を数値化して、行政、第1層協議体の中で共有している。地域への出前講座などでも活用。

地域アセスメント(行政区情報の集約②)

嬉野市地域アセスメント課題把握一覧

地区	No.	行政区	H27.3.31	H27.3.31	H27.3.31	H29.5.1	H24k~H30						課題など	強み・良い点	
			世帯数	人口	高齢(65~)	小学生	空家	公共交通	免許返納者	買い物場所	老人会	サロン			
	59	内野内野山	272	688	6		2	西肥バス	12	×	?	月1回 月1回 月1回	・80代以上は免許証を持たない人が多く、家族に頼んだタクシーを利用している・買い物できる場所は殆どなく、買い物には市街地まで降りる必要がある・身寄りのない独居高齢者、周囲との付き合いのない高齢者がいる・老人会への参加少ない	・サロン活動で年間6回は子どもたちも交えて地域活動を行っている	
	60	温泉一区	322	737	多い	増加中		JRバス 祐徳バス 西肥バス	11		○	×	・運転されない人も多いが、区内で生活に必要なものが揃っており困らない・アパートが老朽化しており高齢者の一人暮らしが多い・一人暮らしの高齢者は家族が近隣に住んで居る場合が多い・地域のリーダー・義成講座をして欲しいとの声	・買い物場所や郵便局など徒歩圏内で揃っている ・1区はもとのからの住民が多く住民同士の繋がりや協力的	
	61	温泉二区	377	843	多い			JRバス 祐徳バス 西肥バス	11		○	×	・4分の1がアパートやワンルームマンションで、独り暮らしが多い・地区行事には若い世代は来ない、休日は地区から若い世代が訪れる・世代間交流がない	・市役所、病院、学校等があり、隣の行政区にはスーパーもある・配達サービスが充実しており外出が困難になってきても生活可能	
	62	温泉三区	243	515	多い	少ない	多い	JRバス 祐徳バス	8		×	×	・若い世代は隣の行政区などに家を建てている場合が多い・高齢者のみの世帯、独居世帯も多い・班に加入していない人が多い(特に生活保護世帯)	・神事や班ごとの行事は今でもよく残っている・商店街などで買い物には殆ど困らない・配達サービスも充実している	
	63	温泉四区	334	760	30	多い	多い	JRバス 祐徳バス	15		×	月1回	・旧四区は人口の空洞化が起きているが高齢者ばかりで独居高齢者も急増・アパートに住む高齢者が地元民ではなく交流が殆どない・新四区は住宅がどんどんで人口が増えている	・徒歩圏内に生活に必要な物が揃う・歩けない人は家族からの支援があっている・魚屋の移動販売が喜ばれている	
	64	井手川内	384	1,047	多数	多い	多い	祐徳バス 乗り合いタクシー	13		×	○	月1回 月2回 週3回	・かなり広い行政区で、新興住宅地は人口が急増・的場地区は空家が多く高齢夫婦のみの世帯が多い・75歳以上で35名程・吉田へ続く地区や山間の地区は坂道ばかりで車がないと生活できない・観野の地区は歩いて買い物に行ける	・民生委員がしっかりと動き夜中に受診の付き添いをしたり

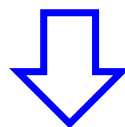
嬉野市内88行政区の生活課題や強みなどを一覧表として、行政、第1層協議体で共有している。各行政区の詳細な情報はSCが管理

ープある

アセスメントから明らかになった嬉野市の現状と課題

【嬉野市における現状の課題】

- **独居高齢者の急増**・・・9世帯に1世帯、要支援者のうち28%
- **郊外での買い物場所の消滅**・・・7割の行政区に買い物場所なし
- **移動に関する課題**・・・公共交通空白地帯（特に塩田町に多い）
 - ・・・免許証返納者の増加（平成24年からの累計で370名超）
 - ・・・公共交通の担い手不足（バス・タクシー乗務員の高齢化）



特に塩田地区の生活支援が脆弱・・・

「買い物支援」と「介護予防」が一緒にできないかな・・・

「買い物支援」と「介護予防」の場をつくらう！！

アセスメントの結果を踏まえ、「買い物支援」と「介護予防」の場をつくる為に動き始める。

★やらないといけないこと(やらなければいけなかったこと)

- ・場の運営の為の団体を確保すること
 - ⇒ 結果ボランティア団体を立ち上げることになった。
- ・体操等の介護予防の為の場所を確保すること
- ・総合事業の実施要綱の整備(通所B、訪問D)
- ・利用ニーズ調査
- ・各種関係機関、関係団体との調整
- ・担当者(SC、行政)間の話し合い
- ・広報活動

塩田地区で買い物支援に対するアンケート調査を実施

○**アンケート対象者** : 塩田町内在住の要支援者・総合事業対象者103名

○**実施者** : 78名(全体の75.7%)・・・うち30.8%は独居

○**実施方法** : 訪問聴き取り調査(8/29～9/25)

○**主な結果を抜粋**

・**もっともよく行く買い物先** ⇒ スーパー(80.8%)

・**買い物先までの移動手段** ⇒ 家族等による送迎(57.7%)

・**買い物に不便を感じている人**(53.8%)

⇒ その理由 家族などの送迎がないと買い物ができない(61.1%)

・**欲しい買い物支援策**

⇒ 店までの送迎(32.1%)、移動販売(28.2%)、近所に店を誘致(23.1%)

・**買い物弱者救済と介護予防のための居場所を利用したい**(60.3%)



移動支援団体を見つける

移動支援団体について

社会福祉法人も地域貢献の在り方を模索しており、移動支援については、すんなり協力の承諾を頂けた。

また、実際に試験運転の中で、定員15名の枠が直ぐに埋まったことを受け、マイクロバス1台体制ではニーズに応えきれないことが判明。直ぐに、他の社会福祉法人にも協力をお願いに行った。今年度中には、定員を増やす方向性で考えている。

★社会福祉法人済昭園(児童及び高齢者施設)が協力

★社会福祉法人〇〇会(障がい者施設)が協力について内諾



2名の運転手さん
&
マイクロバスを一台 提供

ボランティア団体の立ち上げ

居場所の運営団体について

市内の社会福祉法人やNPO法人、校区コミュニティ、婦人会などをあたるがなかなか決まらず・・・

「ごましお結びの会の立ち上げ」について

なければ創ればいいということで、ボランティアを募集すると・・・

市役所OBの方々を中心に、人が集まり、説明会、ボランティア勉強会を経て14名の住民の皆さんとボランティアの会を立ち上げることができた！！

みんなの願い「あったらいいな」をあなたと創る
嬉野市生活支援体制整備事業

塩田地区にて、買い物弱者への生活支援と
介護予防の居場所をはじめます。

(有償)

市民ボランティア 募集します。

ボランティアとして活躍してみませんか？
あなたの時間が、誰かの暮らしを支えます。

内 容 買い物弱者などのお年寄りへの
送迎の補助や買い物の見守りなど

活動頻度 週に1回

活動時間 9:00～12:30
(活動時間は相談に応じます)

ボランティア説明会開催
詳しい事業内容・ボランティア内容
の説明致します！
先月も、お気遣いご参加ください。

【日時・場所】
11月28日・12月5日
(14時～15時)
※両日とも同じ内容です。
塩田町中央公民館

お問い合わせ
嬉野市社会福祉協議会 ☎ 0954-66-9131
担当：塩田地区生活支援コーディネーター 筒井一歩



ごましお結びの会

実は・・・「ごましお結びの会 = 塩田地区2層協議体」

「ごましお結びの会」は五町田、久間、塩田、大草野の4地区を結ぶ会
立ち上げに向けて動いていた際、SCと行政サイドでは、将来的に第2層協
議体という位置づけになればと思っていた・・・

ボランティアより、この言葉を入れて欲しい
との要望が(感動)

ごましお結びの会規約・・・目的の部分

本会は、少子高齢化が急速に進む中であって、安心して暮らせる地域
共生社会の実現に向けた活動を模索するとともに、高齢者等の介護予防
や日常生活の支援に関する活動（事業）を行うことにより、嬉野市内の
高齢者等が住み慣れた地域で元気に住み続けられ、あらゆる世代を超え
て住民同士で交流し、支え合う住みやすい地域づくりを行っていくこと
を目的とする。

ごましお健康くらぶ開所までの歩み(一部のみ掲載)

平成 28年度	<ul style="list-style-type: none">➤ 4月 生活支援体制整備事業はじまる。溝口が第1層SCへ任命される。➤ 4月～うれしのかまちづくり研究会を発足する。➤ 5月～SCとしてすることも分からず、とりあえず地域アセスメントを開始する。 行政区への訪問、公共交通機関での聴き取りなどを行う。このアセスメントを通して、市内での人脈ができたことも非常に大きな収穫で、その後のSCとしての活動に大きく影響した。 ⇒ <u>この時点で既に買い物支援体制の構築の必要性を感じる。</u>➤ 9月 4月～9月までの研究会(全9回開催)を経て嬉野市第1層協議体立ち上げる。 以降、嬉野市第1層協議体は毎月1回の開催を行っている。
平成 29年度	<ul style="list-style-type: none">➤ 4月 第2層生活支援コーディネーター配置される(塩田・嬉野・吉田の3地区に1名ずつ)。➤ 6月 吉田地区で協議体立ち上げを想定した住民勉強会を開始(7月、12月、2月)➤ 8月 市民参加のお祭り型のフォーラムを開催し1000名の市民を集める。➤ 9月 嬉野市生活支援コーディネーター連絡会を開始する(以後、毎月開催)。➤ 3月 これまでの様々なアセスメント結果を踏まえて平成30年度の活動の重点項目を打ち出す。 ⇒ 「居場所づくり」、「買い物支援体制の構築」、「暮らしの保健室の整備」

ごましお健康くらぶ開所までの歩み(一部のみ掲載)

平成 30年度	<ul style="list-style-type: none">➤ 4月 市内に在る<u>買い物場所22店舗への訪問調査</u>(スーパー、コンビニ、物産館など) ⇒ あるスーパーから「うちでせんね」の声をいただく。早速、事業の構想を始める。 当初はスーパーの一角を活用した居場所づくりを模索していた。➤ 5月～居場所の運営団体を探し始める。 ⇒ 各種団体などへの訪問を行うなかで、ある団体から好反応を得る。 その後、11月まで交渉を続けるが、後に破局・・・➤ 7月 モデルとなった山口県防府市の「幸せます健康くらぶ」を視察し、より具体的なイメージを描けるようになる。➤ 8月～9月 利用ニーズ調査・・・要支援者78名へ訪問聴き取りを行い、6割が利用希望される。➤ 10月 <u>社会福祉法人済昭園より移動支援についての内諾を得る。</u>➤ 11月～12月 居場所の運営について交渉していた団体と交渉決裂・・・ないならば、つくればいいということで、ボランティア募集開始からのボランティア団体の立ち上げを行う。➤ 2月 ボランティアへの勉強会実施する。関係者間の打ち合わせを密に行う。➤ 3月 <u>ごましお健康くらぶ試験運転開始(塩田地区)</u>➤ 3月 利用希望者が多く、定員いっぱいになる。週2回の開催を見据え市内の他の社会福祉法人に移動支援についての話を行い、内諾を得る。
令和 元年度	<ul style="list-style-type: none">➤ 5月 合計5回の試験運転を経て、<u>5月7日、正式に「ごましお健康くらぶ」事業開始</u>となる。

ふりかえり

- 構想を具体化させ、立ち上げまでにかかった期間 : 1年間
- 話し合った回数 : 40数回
- 良かったこと : 利用者とボランティアからの喜びの声を聴けたこと
- 立ち上げまでつながったポイント

- ①事前のアセスメントを密に行った・・・必要性を示す根拠となった
- ②各種関係者と必要以上に話し合いを重ねた・・・構想がどんどん現実のものに変化
- ③話をする際、最後はSCとして、行政としての想いを伝えた・・・相手が動いてくれた
- ④行政担当者が伴走してくれた・・・行政とSCで一緒につくりあげた
- ⑤とにかく理想と希望を持って思い切り楽しんだ・・・これが一番大事かも

印象的だった行政担当者のことば

「行政マンになって初めてこんなに仕事が面白いと思った。市民が本当に必要とすることをやろうとしている。そのために自分たちがいる！！」

大事なことは2度言います。私が大切にしたいポイント

①アセスメントは充分にできているか？

できていなければ、先ずはアセスメント(住民の声)に立ち返る。

②自分の目と耳で感じた言葉を口に出しているか？

協議体のメンバーの声や、住民の声を受け止め、それを自分の言葉として、SCが行政が周囲に伝えることが大切。自分の言葉として、想いを込めた時に初めて相手は動き始める。

③相互理解の為にとことん話し合っているか？

取り組みたいことが決まったら(あるいは住民の中で取り組みたい声があがったら)、理解し合い納得がいくまで、話し合いをすること。話し合いの中から、より発展的なものへと化学変化がおこる。

④楽しんでいますか？

まちづくりは人づくり、様々な出合いを思い切り楽しみたい。私は子ども達に大人の責任として、安心して暮らせる町を残していきたい。だから、全力で楽しむという努力が私たちには必要。

おわりに

嬉野市の今回の取り組みは、そんなに難しいものではありません。と言うか、すごく単純なものです。

意外と町の中には資源が溢れています。とにかく、頭で考えて、あとは外に出ていけば、色んなものが見つかります。

そして、見つからなければ創ればいい。何かを、誰かを見つげる以上に、創ることのほうが簡単な場合もあります。

それぞれの市町村で状況は違いますが、それぞれの市町村に合った、生活支援は必ず創れます。皆さん方は嬉野市以上に素晴らしい生活支援が必ず創れます。

その為に、皆さんが本気になれるかどうかです。そして、本気になったらめっちゃくちゃ楽しい事業です。私が生活支援コーディネーターとして言えるのは、そこだけです。